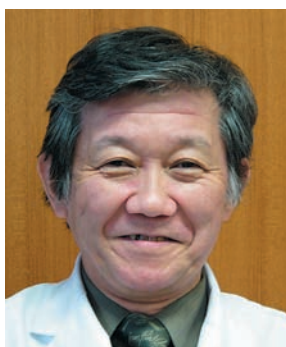


2期目を担当することになりました

病院長 星 和彦



昨年12月の教授会で、再度病院長に推挙していただきました。

熊沢前病院長の下で副病院長を経験したとはいえ、一期目は右も左も解らない状態でのスタートでしたので、この2年間は本当に無我夢中でした。病院の運営をどうするかについてはあ

る程度ビジョンはありましたが、経営となると全てが一からの勉強でした。もちろん、まだまだ解らないことだらけです。各診療科、中央診療部門、看護部、コ・メディカルスタッフ、そして事務の方々に支えられて何とか乗り切れました。現在はもう退職されておりますが、藤原前事務部長と大村前看護部長、鈴木新看護部長を含む5人の副院長先生そして有井新事務部長には私のヒロソフィーを理解していただき全面的な協力体制を作っていただいたことが大きな力になりました。紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

テレビや新聞の報道をみるまでもなく、医療界を巡る情勢は悪化の一途をたどっています。地域医療は「崩壊してしまった」といっても言いすぎではないかもしれません。もちろん山梨県も例外ではなく、附属病院も安閑とはしてられません。私は、地域医療の建て直しには大学・関連病院間の連携とローテートを綿密に構築するしかないと考えています。そのためには何をおいても附属病院に研修医と専門医修練医を十二分に確保しなければなりません。人を集めるには、研究面でも臨床面でも魅力のある医学部、附属病院が求められることとなります。

7対1入院基本料、すなわち7対1看護体制の導入が求められています。附属病院としても平成20年度からの実施に向け、19年度から準備に入りますが容易なことではありません。離職する看護師さんの数も考慮すると単年度で140名近い新看護師さんを採用しなければならず、県内はもとより全国に求人活動を展開しなければなりません。離職率を減らし、有能な多くの

看護師さんに集まってもらうためにも、魅力ある病院づくりは不可欠です。

昨年末から病院敷地内の様々なところで改修工事や新規工事が一斉に開始されることになってしまい、患者さんをはじめ職員の皆様にも騒音や交通規制で大変なご不便をおかけしました。病棟の大きかりな耐震工事は工期が若干遅れましたが、お陰様で無事終了いたしました。大きな地震にも耐えられる病棟になったことは安全を担保する上で重要なことですが、病院そのものは築30年を迎え相当古くなってきました。病院の再開は皆さん同様私の悲願でもあります。貫井学長、塚原理事、前田医学部長にも加わっていただき、病院再開検討会議を毎週開催しています。実現までには数え切れないほどの高いハードルが予想されていますが、学長はじめ大学本部のご理解をいただきながら一步一步前進させたいと考えています。様々な立場から職員の皆様にもご意見をいただかなければならなくなると思います。ご協力をお願いいたします。現在ある東西両病棟を有効に活用することが必ず求められますので、全ての診療科を一度に新病棟に移すことは出来ません。リニューアルした旧病棟に残らざるをえない診療科がいくつか出ますが、2期工事も必要になりますのでご理解いただきたいと思います。

2月に「スターボックス」がオープンし、3月には「どんぐり保育園」が開園しました。殺風景だった病院の周囲がおしゃれな空間に様変わりし、何となく明るくなったような気がします。「この頃、院長は暇さえあればスタバでコーヒーしているようだ・・・」、「病院の稼働率よりスタバの客数の方を心配しているんじゃない?・・・」と口の悪いスタッフからからかわれています。環境の面でも、そして何よりも中身が魅力のある病院になるよう任期の2年間を使いたいと考えています。これまで以上のご支援ご鞭撻を切にお願いいたします。



退職にあたって

小児科 前教授 中澤 眞平



平成2年8月に山梨医科大学小児科に赴任してから16年6ヶ月経ち、いよいよ定年退職となりました。長い間公私にわたりお世話になり有難うございます。小児科病棟では赴任当時と比べ重症な疾患が増加し、診断、治療にあたっては看護師さんをはじめ病院のいろいろな部門の方々に助けていただきました。いままでのご支援に対し厚く御礼申し上げます。またこれからも小児科へのご支援よろしくお願ひ申し上げます。ここ数年間で、山梨医科大学も統合により山梨大学となり、また国立大学法人化と目まぐるしく大学のシステムが変化しました。赴任当時のゆったりした大学の雰囲気、最近では競争と経営優先の方針が全面に出てきて、ちょっと変化し

てきました。幸い山梨大学医学部の経営、特に病院の収支は良好で、経営面ではよいのですが、臨床系医師の研究時間の不足に多少の危惧を感じます。さらに卒後研修義務化により、山梨県では若い医師が極端に不足しております。将来の山梨県の医療に若干の不安を感じております。こんな心配は老人の杞憂であればよいのですが。ここ数年、病院の経営が順調で、新病棟の建設に向けて動き出し、感染や安全対策も益々充実しております。貫井学長、前田医学部長、星病院長ならびに執行部スタッフの尽力によるものと感謝いたしております。大学を去るにあたり、山梨大学医学部ならびに職員の皆さんの御健勝と、大学のさらなる躍進をお祈り申し上げます。

事務部長就任にあたって

事務部長 有井 博文



本年1月1日付けで藤原定夫前事務部長の後を受け、前田医学部長、星病院長を側面から補佐することとなりました有井博文でございます。

私は、昭和63年4月に旧山梨大学から旧山梨医科大学に転任し、約10年間庶務課、会計課にお世話になり、その後、国立天文台ハワイ観測所事務長、木更津工業高等専門学校会計課長を経て、統合後の山梨大学経理部契約室長から法人化後の財務管理部会計課長を経て、このたび就任しました。

法人化後3年が経過した今日、本学もいろいろな意味で大きく変化し、時代に即応した運営が求められています。大学法人の評価に当たっては、6年間の中期計画のうち平成19年度までの4年間の実績で評価されることもあり、19年度は改革年度でもあります。地方の国立大学法人として生き残りをかけ、貫井学長の強いリーダーシップの下、改革の実績を上げて行くことが肝要であります。

法人化によるデメリットを論ずる前にメリットを最大限活用することが法人職員として求められていることは言うまでもありません。そういった意味で、予算の繰越等による柔軟な運営が可能となり、また、運営費交付金の効率化係数1%及び人件費総額5年間5%を視野に入れ、一層の外部資金の獲得（科学研究費補助金含む）等、教育研究に支障を生じないための創意工夫が必要であります。

医学部におきましても課題が山積しており、その一つとして開院後約30年が経過しようとしている附属病院の新棟建設、そして医師不足対策、7:1看護実施による看護師確保対策等々解決していかなければならない課題が多々あります。このような状況下において事務部の果たす役割は非常に重要であります。某新聞記事によれば、地方国立大学のうち24大学が生き残れないとの報道もあります。本学としてこのような事態を招かないよう教職員一丸となって改革に努力する必要があることを痛感しております。

看護部新採用者技術トレーニング研修

看護部 副看護部長 向井 要子

就職前に看護技術を学び、病院の雰囲気を知ることで安心して就職できることを目的に3月15日～17日に看護部新採用者技術トレーニング研修を行い、県内外から就職を予定している51名が参加しました。

自動輸液ポンプ・シリンジポンプ・輸血の管理・血糖測定・喀痰吸引法など実際使用している物品を用い、安全管理の視点を大切に演習を行いました。「ダブルチェックは2人で指差し呼称で確認をする。」「輸液予定量と流量を取り違えないように注意する。」「薬剤ボトルから患者さんの刺入部までを刺入部位や固定方法・ルートの開塞や屈曲がないか、接続のゆるみ、三方活栓の向きを一通り確認する。」など説明しました。新採用者は真剣な表情で一つ一つメモを取り聞いていました。始めは

緊張した様子でしたが、しだいに笑顔が見られプリセプターとうち



とけていました。プリセプター自身も自己の看護技術を再確認できる場になりました。新採用者の研修終了後の声は、「今から一緒に働く人と知り合えたこと、技術の再確認ができたことなどよかった。」「実際に学ぶ事ができたことで不安は軽減されたがまだまだ不安に思う。」などでした。

技術が身につくまでには、まだ時間と経験が必要です。今後現場教育(OJT)の充実を図っていきたいと考えています。

可愛い園児がいっぱい！！ どんぐり保育園が開園しました

前総務課長 佐々木 順 三



皆様お待ちかねの「どんぐり保育園」が開園し、4月2日に入園式が執り行われました。可愛い園児が多数入園し、毎日大騒ぎの様様です。



どんぐり保育園 乙黒先生



りす1組のおともだち



りす2組のおともだち



うさぎ・こあら組のおともだち

入園式に先立ち、3月22日には開園式が執り行われ、学長とまみい保育園乙黒園長の挨拶の後、病院長から「どんぐり保育園」の名付けの親である看護部長田玉枝師長に記念品が渡されました。長田師長ありがとうございます。

園児は、天気の良い日にキャンパス内を散歩することがあります。キャンパス内の自動車の運行は徐行願います。



まみい保育園乙黒園長、星病院長、眞井学長、塚原理事、21世紀職業財団井上所長の皆さんによるテープカット

平成19年度研修会予定

No.	研修会等名	目的	受講対象者	実施期日	会場	担当部署
1	特別講演会	医療事故防止に関する認識の高揚を図るとともに安全管理のための方策について周知徹底を図る	病院関係職員	19.5/28(月) 19.12	臨床大講堂等	安全管理室・医事課
2	事例検討会	事例を通してコミュニケーションの重要性を体験する	病院関係職員	19.5/22(火)、7/4(水)、10/18(木)、20.1/15(火)	管理棟3階大会議室	安全管理室・医事課
3	医療安全活動報告会	安全確保の取り組みを報告を通して安全意識の向上を図る	病院関係職員	19.9/18(火)、20.2	臨床大講堂等	安全管理室・医事課
4	AED研修	AED使用の実技を学ぶ	病院関係職員	19.6、19.11	未定	安全管理室・医事課
5	緩和ケア勉強会	緩和医療において有効な治療法を共有し、緩和ケアの推進を図ることを目的とする	医師・看護師・薬剤師その他医療従事者	19.9 20.2	臨床大講堂	事務局・麻酔科
6	新採用職員研修	職員としての使命と心構えを自覚させ、併せて初任者としての必要な基礎知識、技能および態度を養成する	新採用職員	19.4 19.8 19.10 20.1	臨床大講堂等	医学部総務課
7	院内医療安全・感染対策及び個人情報保護法関係研修会	事業所各社従業員の安全管理・院内感染及び個人情報保護法などについての共通した知識及び意識を習得する	院内パート職員、院内事業所関係者	19.6	臨床大講堂等	医学部総務課
8	医師接遇研修	大学病院として、地域社会の模範となれる医療のサービス提供を実現するための要件を考える。併せて、挨拶や名刺交換、身だしなみ、ポジションの取り方が様々な心理的影響を与えることを学び良好な関係作りの基本を学ぶ。	臨床系に在職する医師	19.6	管理棟3階大会議室	医学部総務課
9	感染対策研修会	感染対策に関する知識を深める。	全病院職員	19.6 19.11	臨床大講堂等	医学部総務課

平成19年度山梨大学医学部新採用職員研修を終えて

総務課 人事G研修担当 植村 健

平成19年度山梨大学医学部新採用職員研修を、4月2日～4月9日に、看護職員、研修医、医員、病院職員等の117名が参加し、臨床講義棟大講義室及び小講義室等において開催しました。

1日目は全参加者が合同で病院の組織と概要、サービスと倫理、病院経営について、医療事故防止と感染対策、個人情報保護法等について、2日目は、医療事故・医事紛争、病院の各組織についての講義及びメンタルヘルスについての講義を受講しました。3日目は、専門講師による接遇研修

を実施しました。1日かけて行ったこの研修は本研修の特色でもあり、参加者の評判もよく、大変参考になったようです。4日目以降は、職種毎に実践的な実習を行いました。

研修医に対しては、オーダリング実習、手洗い実習及び輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱い実習を行い好評でした。

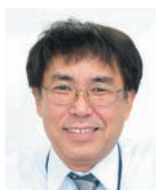
また、救急部主催の救急研修を2日間受講することにより、2種類の公式資格が取得できました。

新採用職員研修については、中途採用者もいるため、本研修会以外に年3回の研修を計画しております。



腫瘍センターがん登録部門

病院経営管理部長 佐藤 弥



本院は、平成19年1月31日に「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。指定病院は、がん治療診療はもちろん、各種がん情報の提供、がん治療に関する医療関係者の研修等を実施しなければなりません。その中で、「院内がん登録」は必須なものとなっています。

毎年どのくらいの人ががんで亡くなっているか（死亡数）、毎年どのくらいの数のがんが新たに診断されているか（罹患数）、がんと診断された人がその後どのくらいの割合で生存しているか（生存率）、といったがんの統計情報は、国や地域のがん対策を立案したり評価したりするのにとても重要です。このようながんの統計情報のうち、罹患や生存率などの多くの情報は、「がん登録」という仕組みで集められています。（国立がんセンターがん対策情報センター）

「がん登録」には、基本的に3種類あります。①地域がん登録は、対象となる都道府県の居住者に発生した全がんを登録するもので、がんの罹患、受診状況、生存率の計測には必須なものです。②院内がん登録は、当該医療機関で診断（治療）を受けた全がんを登録するもので、施設のがん医療活動の評価に役立ちます。③臓器別がん登録は、当該施設で治療し、主治医が登録対象として適格と判断したもののみを登録するもので、がんの診断、治療等に関するものです。

日本では、地域がん登録も院内がん登録も、全国的に

実施されておらず、臓器別がん登録が比較的限定されて実施されていました。対がん活動においては、地域がん登録による、がんの罹患率の把握は必須であり、地域におけるがん診療の均展化を推進するには、3つのがん登録がそれぞれ重要なものとなります。

山梨県においては、本年4月より地域がん登録事業が開始されました。これまで、地域がん登録と院内がん登録は独自の項目を設定して実施されてきましたが、がん対策基本法により、ようやく登録項目の共通化がなされ、院内がん登録を実施すれば、地域がん登録へ情報を提供できることが可能となっています。

本院では、平成19年1月1日以降に新しく診断されたがん患者を対象として院内がん登録を開始いたします。登録項目は、診断日、治療開始日、組織、UICCのTNM分類、死亡日などです。多くの情報は、病院情報システムより取得できますが、外来や内容の一部については、主治医の意見が必須となる場合があります。腫瘍センターがん登録部門で、院内がん登録を実施しますが、問い合わせにはよろしくご協力お願いいたします。院内がん登録については、6月に説明会を予定しております。地域がん登録は、県内医療機関でも実施されています。これらの違いについて解説ならびに運用方法について説明予定ですので、ぜひ参加願います。不明な点がありましたら、がん登録部門（病院経営管理部長）まで、問い合わせ願います。

病院経営企画室

病院経営企画室 室長 石原 義久



昨年の4月に経営企画室長として就任し、今年度から附属病院に特化した企画室として新たに「病院経営企画室」としてスタートすることになりました。

私が附属病院の経営企画を担当するようになって8年目を迎えます。附属病院に経営企画、戦略を検討する部署として発足したのは平成12年の4月、その当時は塚原病院長（現在・山梨大学財務・附属病院担当理事）で、名称は「病院運営改善計画推進室」、室長は貫井副病院長（現在・山梨大学学長）で、企画、戦略、分析を専任で担当する職員として配属され、医事課の専門職員として事務の中に所属していました。

その後室の名前も「病院運営改善推進室」に変わり、さらに平成14年10月には山梨大学との統合期に併せ、医療情報部を発展的に改組し、「病院経営管理部」を設置、

担当事務職員として業務を継承しました。

7年間という時は長くもあり、短くも感じます。昨年度に比べスタッフ数も減りましたが、医療制度改革に始まり、人件費の抑制、大学評価に関連した附属病院評価など附属病院を取り巻く環境は厳しく、立ち向って行かなければならない課題が多々あり、一人ひとりが120パーセントの努力を惜しむことなく、前に進むだけと感じております。

私としては、今年で半世紀を迎える人生ですが、いつまでも情熱を絶やすことなく、後輩には怖い存在であり続けたいと思っております。

病院経営企画室に対し、ご不満な点も多々あることと存じますが、室長の私以下、室員一丸となって業務に邁進する所存でおります。どうか皆様方からのご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

サテライト薬局について

薬剤部 副薬剤部長 鈴木正彦



薬剤部の長年の課題であり、多くの診療科・病棟より要望されていた薬剤師病棟常駐業務が、ようやく始まります。

検討課題であった人的問題は、院外処方せん発行率がほぼ95%となったことから薬剤師の増員なしでの配置が可能となりました。

サテライト薬局には、6階の病棟と臨床研究棟間の通路にある会議室（医師当直室の隣）を改装いたしました。室内の無菌処理等も終了し、常駐開始は5月連休明けを予定しております。

サテライト薬局には平日の7時～18時に常駐し、6階東西病棟を対象として8時～21時に開始予定の抗がん剤を含む注射薬の無菌混合調製を実施します。また、注射薬調製時以外は、服薬指導や持参薬識別など可能な限り患者さんの近くでの業務を実施したいと考えております。病院長より対象病棟の拡大を指示されており、7階

病棟、5階病棟の抗がん剤注射薬の調製等を可能な限り早急に拡大したいと考えております。

最後となりましたが、病棟常駐を積極的に推進していただきました星病院長、業務内容の検討にご協力いただきました看護部各位、カンファレンス等の場所を移動して会議室を提供していただきました第一内科、第三内科、神経内科各位、院外処方発行にご協力いただきました診療科各位、また管理課、病院経営企画室をはじめとした事務部門各位に深く感謝いたします。

皆様のご協力により創られたサテライト薬局であり、その期待に沿えるよう質の高い医療の提供に貢献したいと考えておりますので今後ともご協力・ご指導よろしくごお願い申し上げます。



災害対策マニュアル職種別対応フローチャートについて

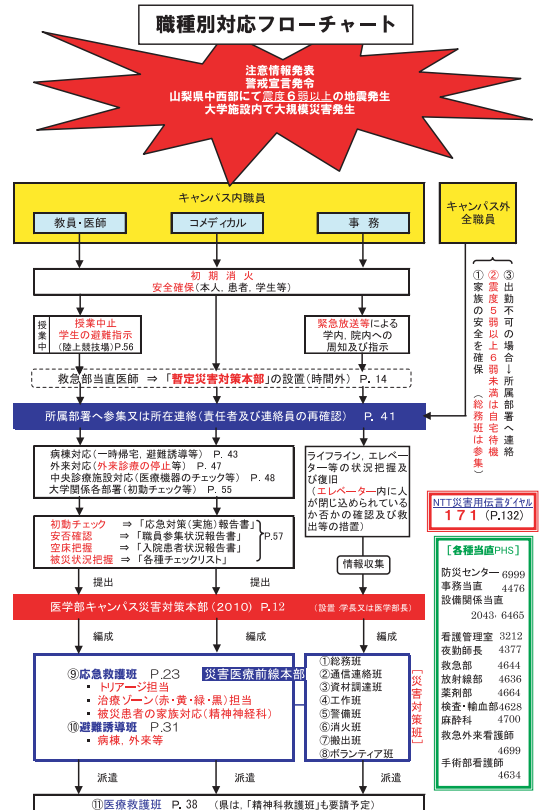
防災災害対策委員会委員長 松田兼一



皆様こんにちは、防災災害対策委員会の松田です。春先に皆様のお手元にお配り致しました災害対策マニュアル（第2版）についてご説明申し上げます。新しいマニュアルにはこれまでのマニュアルと異なる特徴が二つあります。一つ目は、

本マニュアルは読むマニュアルではなく、災害が起こったときに使用するマニュアルである点です。新しいマニュアルには災害時にとるべき行動だけではなく、災害対策本部に提出する報告書一式をはじめ各種防災設備や非常食の保管場所、NTT災害用伝言ダイヤルの使用方法なども綴られています。災害時にこのマニュアルが役立つと思いますので、いざというときにすぐに見つけられるように職場の目立つところに常に置いて頂けると幸いです。二つ目は本マニュアルを使用するためのフローチャートを常に身につけて頂くことにした点です。フローチャートの一番上の赤で囲まれた部分に記されている“注意情報発表、警戒宣言発令、山梨県中西部にて震度6弱以上の地震発生、大学施設内での大規模災害発生”時には、職員の方に昼夜問わず全員集合して頂きます。そして集合後の行動はすべてこのフローチャートに従って行って頂くことになります。いざというときのために一度はフローチャートをたどってみてください。よろしくお願いいたします。本マニュアルは防災・災害対策委員20余名で検討に検討を重ねて作成致しましたが、不備な点が多々あると存じます。訂正箇所、改良

箇所がございましたらご連絡頂ければ幸いです。いざというときに皆で力を合わせて災害に立ち向かって行けるよう、皆様のご協力よろしくごお願い申し上げます。



「作成者の意図によって、色々なことが実現できるクリニカルパス」

クリニカルパス推進委員長 小児科 東 田 耕 輔



医療経済は縮小しているにも拘らず、安全で良質な医療の提供が求められるようになってきました。導入当初は、単に経営指標の改善を目指すための一つの戦術として普及が試みられ、また「Cook Book Medicine」と非難されていたクリニカルパスも、EBMやガイドラインを普及させるのにも有用な方法の一つであることが徐々に理解されつつあります。クリニカルパスのひとつの特徴は、皆様をご存知の通り、医療の標準化です。その時点で最善と考えられる医学的手段（EBMの利用）を選びながら、入院から退院までの各ステップを作成していきます。この経路全てが、一枚の紙（時系列型パス）であれば、検査や簡単な手術（バリエーションが少ない）しか作成する対象となりません。しかし、パスも、進化を遂げつつあり、日めくり型（1日の予定が1枚の紙になっている）やステップ型（短期的な診療目標を挙げて、達成される毎に次の

ステップに進む。最終的には退院というステップに到達する。）が主流になりつつあります。イメージとしては、すぐろくのようなタイプです。各メーカーが作成している次世代のオーダーシステム(本院では、平成21年1月に更新が予定される)では、パス自体が総合診療録のようなシステムに進化を遂げているようです。患者さんが入院して、○▲パスを選べば、全てのオーダーが自動的に入力されます。検査も、処方も、看護師さんや研修医の観察項目さえも指示することが可能になります。99%の合併症を加味した観察項目や検査項目を設定すれば、医療事故も格段に減らすことが可能になります。具体的に、何を観察すれば良いかが指示できれば、新人看護師の不安の解消にも繋がるのではないかと思います。「かぜに注意しましょう」ではなく、「外出時にはマスクを。帰宅したらうがいと手洗いを実行しましょう。」が必要になりつつあります。

安全管理室から「今年度の医療安全活動計画」のお知らせ

安全管理室 GRM 岩 下 直 美



平成18年度のインシデント発生原因の多くは、コミュニケーション不足によるものが大きいと考えられます。各部門内はもちろん、患者さんを含めた診療科、部署、セクション等の横のコミュニケーション、つまり病院全体のコミュニケーションが重要といえます。また、「人はエラーをおかすもの」という認識に立ち、うっかりミスや思い込みによるエラーを防止するために、現場の中から業務の改善や具体的な実践方法の工夫をチーム全体で考え出すことが大切です。

そこで平成19年度の医療安全活動の重点目標を「病院全体がひとつのチーム」としました。この目標を達成するための年間活動計画として、安全のための特別講演会

2回、事例検討会4回、安全活動報告会2回、安全強化月間2回（6月・11月）、AED勉強会2回を予定しています。更に、関連部署間でのインシデント事例の情報の交換と共有、チームによる事例検討会の実施を強化したいと考えています。

研修会に多くの皆様に参加していただくために、今年度は医療安全研修会の参加記録を点数化しました。従来は参加シール2枚取得の方法から、研修の種類により参加点数を決め、年間10点取得を目標にしました。詳細は医療スタッフマニュアルP6をご覧ください。皆様のご協力をお願いします。

第1回特別講演会を信州大学医療情報部部長村瀬澄夫先生を講師に開催します。認知心理学からリスクマネジメントを楽しく講演していただけたと思います。

一杯の紅茶と笑顔の看護師に見送られて

栄養管理部 調理師長 清 水 忠 保



今年1月に産婦人科の病室の一部が改修され、より快適に患者さんが過ごせるようになりました。これを受けて3階東病棟の花輪師長から「当科の患者さんに当院らしい何か目新しい患者サービスを始めませんか。」と提案がありました。すでに当部門では、食の充実という観点から、従来からの選択メニュー食をベースにした特別メニュー食を昨年の6月から実施しております。この業務が最近ようやく軌道に乗り始めた矢先に受けた新しい提案です。現状業務にあまり負担を掛けないこと、斬新であること、この

二つの条件で栄養管理部スタッフと相談した結果、退院時に看護師の笑顔とともに、紅茶にケーキ、それに出産のお祝いメッセージカードを添えることになりました。患者さんにはとても好評です。



薫り高い紅茶とケーキ



リニューアル後の3階東病棟

病院各部門代表者

部門	新部門長	部門	新部門長
検査部	尾崎 由基男	生殖医療センター	笠井 剛
輸血部	岩尾 憲明	腫瘍センター	桐戸 敬太
病理部	加藤 良平	治験センター	小口 敏夫
放射線部	荒木 力	医療福祉支援センター	佐藤 弥
手術部	石山 忠彦	医療チームセンター	飯嶋 哲也
救急部	松田 兼一	MEセンター	樋口 浩二
集中治療部	松田 兼一	病院経営管理部	佐藤 弥
材料部	佐藤 弥	栄養管理部	阿佐美 薫
血液浄化療法部	深澤 瑞也	卒後臨床研修センター	藤井 秀樹
光学医療診療部	榎本 信幸	安全管理部	星 和彦
リハビリテーション部	濱田 良機	薬剤部	小口 敏夫
分娩部	平田 修司	看護部	鈴木 久美子



手術部長 石山 忠彦

手術部は病院の収益を支える重要な部門です。手術は今後増加していくことが予想され、手術部の役割はさらに大きくなっていくと考えられます。われわれ手術部は、安全な手術が行われるように各診療科と協力して、病院の中核を担っていきたいと思います。



輸血部長 岩尾 憲明

平成19年4月1日付で輸血部長を拝命いたしました。安全で適正な輸血医療の実践を目指すと同時に自己血輸血や細胞治療についての取り組みをさらに進め、輸血部業務を整備し、充実させていきたいと思っております。ご支援賜りますようよろしくお願い致します。



血液浄化療法部長 深澤 瑞也

この度、武田正之部長の後任として泌尿器科講師兼任で血液浄化療法部部長を拝命いたしました。透析療法の導入から各種合併症の管理、入院時の透析療法のマネジメントを担当いたします。泌尿器科・第三内科と協力して快適な血液浄化療法を心がけたいと思っております。



生殖医療センター長 笠井 剛

生殖医療センターは、2005年11月から本格的に稼働し始めました。2006年には、体外受精以外の症例も含めると120例の妊娠例を得ることができました。これは、2004年（60例）の2倍、2005年（90例）の1.3倍にあたります。今後も妊娠例を増やしていく予定です。



医療チームセンター長 飯嶋 哲也

医療チームセンターは職域を越えたスタッフが協力しての診療・看護支援が主たる業務です。現在、緩和ケア・褥創対策の両チームが活動しており、今年度中にNSTも活動開始予定です。患者さん・院内スタッフの双方にとって、より満足度の高い支援が提供できるように努力したいと考えております。



MEセンター長 樋口 浩二

MEセンターは『すべての業務は、患者さんのために・・・』を基本理念とし、医療機器に関する臨床技術の提供、保守管理、および利用者への情報提供などを目的とした独立した部門です。現在は、残念ながら拠点となる場所がないため手術部を間借りしていますので、必要時は手術部にご連絡をお願いします。



掲 示 板

緩和ケア「がんの痛みの治療」教室のご案内

緩和ケアチーム 看護師長 井上 貴美

当院の緩和ケアチームでは「がんの痛みの治療」教室を開催しています。内容は主に『医療用麻薬』についてです。チームの薬剤師の講義の後に、チームの医師と看護師が参加者の質問等を受けています。参加費は無料で、事前予約の必要はありません。患者さんや家族の方などお気軽にご参加いただくよう、お声をおかけください。

「がんの痛みの治療」教室 開催日時 場所：山梨大学医学部附属病院 4階カンファレンスルーム

平成19年 5月14日 (月) 13:30～	平成19年 9月10日 (月) 13:30～
平成19年 6月11日 (月) 13:30～	平成19年10月15日 (月) 13:30～
平成19年 7月9日 (月) 13:30～	平成19年11月12日 (月) 13:30～
平成19年 8月20日 (月) 13:30～	平成19年12月10日 (月) 13:30～



タクシープールの移設について

タクシー待機場所が病院正面玄関のすぐ横であったことから、患者さん等より排気ガスが臭い旨の苦情を受けていました。この度タクシー乗り場の2台を除き、その待機場所を病院正面玄関ロータリー北側に移設しましたのでお知らせいたします。

無菌室の増設について

7階西病棟で無菌室への改装工事が行われました。皆様には、騒音等でご迷惑をおかけしました。無菌室は、血液疾患患者さんの感染防止に大きな力を発揮します。血液疾患患者さんが安心して治療を受けられる環境が徐々に整ってきております。



病棟の耐震補強工事が完成しました

騒音等で大変ご迷惑をおかけしてまいりましたが、3月末に病棟耐震補強工事が完成致しました。外部にPCフレームを組み立て、4階床面を東西各10箇所のダンパーで支え、地震の揺れを抑えて耐震性能を確保するものです。本工事完成により東海地震など、近い将来発生が予測されている大地震に対し、安全・安心な病棟が実現しました。ご理解とご協力のほどありがとうございました。

病院機能改善検討委員会

病院機能改善検討委員会では、新年度に新たな学生実習が始まるにあたって、学生が医療スタッフとして見られることへの自覚を持ってもらおうとBSLポケットレビューを作成しました。学生の皆さんの自覚もですが、指導するスタッフもお手本となるよう襟を正したいものです。



院内コンサートが開催されました

平成19年1月23日本院玄関ロビーにおいて入院患者さんやご家族、職員約150名が集まり、院内コンサートが開催されました。演奏はプラハ音楽院教授のヴラダン・コチ氏で、かつて共産党が政権を握っていた当時チェコ・スロバキアで徴兵を拒否し、軍人として忠誠を誓う書面に署名しなかったため投獄された経歴をお持ちです。ヴラダン・コチ氏に師事する中村理恵子氏も一緒に演奏していただきました。



院内学級、小児科病棟で星[★]のお話をききました

平成19年1月15日、本院院内学級において、国立天文台ハワイ観測所助教授林左絵子先生をお迎えして、ハワイ島マウナケア山の頂上にある口径8.2mのすばる望遠鏡と星空の魅力について講演をしていただきました。生徒達はマウナケア山の様子について活発に質問をしていました。その後、小児科病棟でも、易しく宇宙のお話をしていただき、就学前の子供さんも夢中になって聴いていました。



ご意見、投稿をお待ちしています。(ynoda@yamanashi.ac.jp 病院経営企画室内線2126)